

学生確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 新設組織の概要	p. 2
①新設組織の概要	
②新設組織の特色	
(2) 人材需要の社会的な動向等	p. 3
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	
②中長期的な入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	
③新設組織の主な学生募集地域	
④既設組織の定員充足の状況	
(3) 学生確保の見通し	p. 7
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
②競合校の分析状況	
③学生確保に関するアンケート調査	
④人材需要に関するアンケート調査等	
(4) 新設組織の定員設定の理由	p. 12

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

学 科	入学定員	収容定員	所在地
電子情報通信工学科 (情報通信エレクトロニクス工学科)	43人 (40人)	215人 (200人)	熊本県合志市須屋 2659-2
知能制御情報工学科 (制御情報システム工学科)	43人 (40人)	215人 (200人)	熊本県合志市須屋 2659-2
情報工学科 (人間情報システム工学科)	43人 (40人)	215人 (200人)	熊本県合志市須屋 2659-2

上段：新設組織、 下段：既設（改組前）組織

②新設組織の特色

情報通信エレクトロニクス工学科、制御情報システム工学科、人間情報システム工学科を廃止し、電子情報通信工学科、知能制御情報工学科及び情報工学科を新設する。入学定員は、いずれの学科も従前の40名から3名増員し、43名とする。学位の分野はいずれの学科も「工学」とする。

■ 電子情報通信工学科

電子情報通信工学科の前身となる情報通信エレクトロニクス工学科は、情報通信とエレクトロニクスのそれぞれの専門技術とともに両者を融合した内容及びその活用技術が学修できることを特徴とし、近年の情報通信とエレクトロニクスに対する高度化、多様化、グローバル化したニーズに応えられる技術者の育成を目指してきた。

今回の改組では、上記特徴を継承しつつ、すべての学生が高度情報専門人材として最新情報技術に対応できるためのカリキュラムを設定する。本校のどの学科の科目も選択できるように配慮し、学科の垣根を越えた「情報探究系人材」の育成を目指す。

【養成する人材像】

電子情報通信工学科は、電子工学および情報通信工学に関する基礎技術を基盤として、半導体技術に関連するマイクロエレクトロニクス分野や、無線技術を含む高度化する情報通信ネットワーク分野に関する技術を修得し、多様な社会的課題の解決に応えることのできる技術者を育成する。

■ 知能制御情報工学科

知能制御情報工学科の前身となる制御情報システム工学科は、「制御」関連技術と「情報」関連技術、及びそれらを融合したシステムについて学び、これらの技術を身に付けた実践的技術者の育成を目指してきた。

今回の改組では、上記特徴を継承しつつ、すべての学生が高度情報専門人材として最新情報技術に対応できるためのカリキュラムを設定する。本校のどの学科の科目も選択できるように配慮し、学科の垣根を越えた「情報探究系人材」の育成を目指す。

【養成する人材像】

知能制御情報工学科は、AI（人工知能）に関する先端情報技術を学び、AI および工学基礎（IoT・計測・制御工学）を活用したシステムの計測や開発に関する技術を修得し、福祉支援など多様な社会的課題の解決に応えることのできる技術者を育成する。

■ 情報工学科

情報工学科の前身となる人間情報システム工学科は、コンピュータサイエンスと人間環境技術を融合した“社会基盤や人の生活に役立つ情報システムづくり”を目標に、人にやさしく暮らしを豊かにする情報システムの研究と、様々な社会分野で活躍できる感性豊かな情報技術者の育成を目指してきた。

今回の改組では、上記特徴を継承しつつ、すべての学生が高度情報専門人材として最新情報技術に対応できるためのカリキュラムを設定する。本校のどの学科の科目も選択できるように配慮し、学科の垣根を越えた「情報探究系人材」の育成を目指す。

【養成する人材像】

情報工学科は、情報工学に関する技術を基盤として、先端情報技術に関連するコンピュータ工学分野やデータサイエンス分野に関する技術を修得し、多様な社会的課題の解決に応えることのできる技術者を育成する。

（２）人材需要の社会的な動向等

①新組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

第５期科学技術基本計画（平成 28 年 1 月 22 日 閣議決定）¹において、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」として Society 5.0 が提唱された。第 6 期科学技術・イノベーション

¹ <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5honbun.pdf>

基本計画（令和3年3月26日閣議決定）²では、我が国が目指すべき Society 5.0 の未来社会像を「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」と表現し、その実現に必要なものとして、「サイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への変革」「新たな社会を設計し、価値創造の源泉となる『知』の創造」「新たな社会を支える人材の育成」をあげている。AI 戦略 2019（令和元年6月、統合イノベーション戦略推進会議決定）³では、数理・データサイエンス・AI を習得した大学・高専生の育成目標（2025年）を、リテラシーレベル約50万人／年、応用基礎レベル約25万人／年としている。我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）（令和4年5月、教育未来創造会議）⁴には、「2030年には先端IT人材が54.5万人不足するという調査結果もある」との記述がある。デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023改訂版）（令和5年12月26日、閣議決定）⁵では、「専門的なデジタル知識・能力を有し、デジタル実装による地域の課題解決を牽引する人材を『デジタル推進人材』と位置付け、（中略）2022年度から2026年度末にかけて230万人の育成を目指す」とし、重点領域として「高等教育機関等におけるデジタル人材の育成」を掲げている。

熊本県では、TSMC（台湾セミコンダクター・マニファクチャリング・カンパニー）の熊本進出を契機とし、今後、本県における半導体産業の更なる集積や新産業の創出等の波及効果を生み、県下全域における県経済の成長に結びつけていくため、くまもと半導体産業推進ビジョン⁶【資料1】を策定した。ビジョンでは、「半導体インフラを支え、挑戦し続ける熊本」を目指す姿として掲げ、「半導体・デジタル領域の幅広い知識を持ち、様々な産業領域で活躍できるグローバル人材の育成・集積を図るとともに、地場中小企業を含めたDXの促進を図る」とし、以下の目標値が設定されている。

指 標	目標値	現状
県内大学、高専、高校卒業後の半導体関連企業への就職者数	255人以上（※） （2023年度）	171人 （2021年度）

（※）各教育機関における取組みを踏まえ、今後上方修正予定

九州半導体人材育成等コンソーシアム（九州各県の産官学の関係機関で構成）は、2023年3月会合での人材育成ワーキンググループ（WG）2022年度活動報告⁷において、「九州の半導体産業における人材不足は、短期的にも中長期的にも年間1000人程度になる見込み」との

² <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf>

³ <https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/aistrategy2019.pdf>

⁴ <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/220510honbun.pdf>

⁵ https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/pdf/20231226honbun.pdf

⁶ https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/life/168486_394477_misc.pdf

⁷ https://www.kyushu.meti.go.jp/seisaku/jyoho/oshirase/230404_1_4.pdf

調査結果を示している。また、JEITA（一般社団法人電子情報技術産業協会）半導体部会は、国際競争力強化を実現するための半導体戦略 2024 年版⁸において、「10 年間で 43,000 人の半導体人材を必要（うち九州ブロック 12,000 人）」としている。

熊本県内教育機関の最近の動向は次のとおりで、2024 年 4 月に、熊本大学では情報融合学環（DS 総合コース、DS 半導体コース）及び工学部に半導体デバイス工学課程を、熊本県立技術短期大学校では半導体技術科を開設した。2025 年 4 月に、熊本県立水俣高等学校では半導体情報科を、学校法人開新学園開新高等学校では半導体情報コースを開設した。いずれの学校も総収容定員の変更を伴わない改組によって情報系人材を増員している。また、一般社団法人熊本県工業連合会から熊本県知事への令和 6 年度施策提言書⁹には、大学等の機能強化として、「例えば熊本県立技術短期大学校の機能強化（定員増、4 年制移行など）を目指す必要がある」との記述がある。

②中長期的な入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）（令和 7 年 2 月 21 日、中央教育審議会）¹⁰において、「18 歳人口が昭和 41（1966）年をピークに減少を続けており、令和 6（2024）年現在約 63 万人いる大学進学者数は、2040 年には約 17 万人減の約 46 万人」との予測が示された。本校熊本キャンパス 3 学科志願者の 9 割以上を占める熊本県でも人口減少が急速に進み、令和 6 年（2024 年）版の熊本県推計人口調査結果報告（年報）第 4 表¹¹によると、15 歳人口は今後 10 年間で 17.7%減少する。令和 7 年に受験した熊本県出身者のうち上位 3 市では 13.0%減少と県全体より減少率は緩やかである。

令和7年の受験生数の内訳

受験年	現年齢	熊本県		熊本県外		合計	
令和7年(2025年)	15歳	181人	96.8%	6人	3.2%	187人	100.0%

熊本県の15歳人口動向（令和8年度開設から10年間）

受験年	現年齢	人口	増減率
令和8年(2026年)	14歳	16,391人	-17.7%
令和17年(2035年)	5歳	13,492人	

※人口は令和6年(2024年10月1日現在) 熊本県推計人口調査結果報告（年報）第4表の数値

⁸ https://semicon.jeita.or.jp/news/docs/20240513_JEITA-JSIA_teigensyo.pdf

⁹ <https://kenkoren.gr.jp/wp-content/uploads/2024/10/%E6%96%BD%E7%AD%96%E6%8F%90%E8%A8%80%E6%9B%B8%EF%BC%88%E7%9C%8C%E7%9F%A5%E4%BA%8B%EF%BC%89.pdf>

¹⁰ https://www.mext.go.jp/content/20250221-mxt_koutou02-000040400_1.pdf

¹¹ <https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/236985.xlsx>

令和7年に受験した熊本県出身者のうち上位3市と当該市の人口動向（令和8年度開設から10年間）

受験年	現年齢	熊本市		合志市		菊池市		小計	
令和7年(2025年)	15歳	89人	47.6%	27人	14.4%	9人	4.8%	125人	66.8%
		人口	増減率	人口	増減率	人口	増減率	人口	増減率
令和8年(2026年)	14歳	7,158人	-13.9%	806人	-6.1%	413人	-9.9%	8,377人	-13.0%
令和17年(2035年)	5歳	6,162人		757人		372人		7,291人	

既設学科の情報通信エレクトロニクス工学科、制御情報システム工学科、人間情報システム工学科（各学科の入学定員 40 人）の過去 5 年間（令和 2～6 年）の平均志願者数は、73.2 人、70.6 人、72.4 人で、熊本県の人口減少率を反映させた志願者数は、60.3 人、58.1 人、59.6 人となる。新設学科の入学定員を各 43 人とした場合でも志願倍率は 1.4 倍程度を確保できることから、定員を充足できる見込みである。

入学志願者・倍率

受験年	人口 増減率	情報通信エレクトロニクス工学科			制御情報システム工学科			人間情報システム工学科		
		志願者数	入学定員	倍率	志願者数	入学定員	倍率	志願者数	入学定員	倍率
令和2年(2020年)		64	40	1.6	116	40	2.9	70	40	1.8
令和3年(2021年)		60	40	1.5	66	40	1.7	83	40	2.1
令和4年(2022年)		104	40	2.6	55	40	1.4	58	40	1.5
令和5年(2023年)		71	40	1.8	59	40	1.5	62	40	1.6
令和6年(2024年)		67	40	1.7	57	40	1.4	89	40	2.2
合計		366	200		353	200		362	200	
過去5年間の平均 入学志願者・倍率		73.2	40	1.8	70.6	40	1.8	72.4	40	1.8
人口増減率反映後 の入学志願者数	-17.7%	60.3			58.1			59.6		

入学定員設定を 【43人】 とした場合の志願倍率	志願者数	入学定員	倍率	志願者数	入学定員	倍率	志願者数	入学定員	倍率
	60.3	43	1.4	58.1	43	1.4	59.6	43	1.4

③新設組織の主な学生募集地域

直近３年の熊本高専既設３学科新入生の出身地は下表のとおりで、常に９割以上が熊本県内となっており、この傾向は今後も変わらないものと考えられることから、主な学生募集地域は熊本県下となる。

学科名	令和4年度					令和5年度					令和6年度				
	入学者数（人）			県内 入学者 率	県外 入学者 率	入学者数（人）			県内 入学者 率	県外 入学者 率	入学者数（人）			県内 入学者 率	県外 入学者 率
	計	うち 県内 出身者	うち 県外 出身者			計	うち 県内 出身者	うち 県外 出身者			計	うち 県内 出身者	うち 県外 出身者		
情報通信エレクトロニクス工学科	43	39	4	90.7%	9.3%	43	42	1	97.7%	2.3%	43	43	0	100.0%	0.0%
制御情報システム工学科	43	42	1	97.7%	2.3%	42	41	1	97.6%	2.4%	43	41	2	95.3%	4.7%
人間情報システム工学科	44	42	2	95.5%	4.5%	42	38	4	90.5%	9.5%	43	43	0	100.0%	0.0%
計	130	123	7	94.6%	5.4%	127	121	6	95.3%	4.7%	129	127	2	98.4%	1.6%

「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」は添付資料【別紙１】のとおりである。

④既設組織の定員充足の状況

今回の学則変更に係る既設学科の入学定員の充足状況（直近５年間）は添付資料【別紙２－１】～【別紙２－３】のとおりである。

既設学科の情報通信エレクトロニクス工学科、制御情報システム工学科、人間情報システム工学科（各学科の入学定員４０人）の過去５年間（令和２～６年）の入学定員充足率は、１．０８、１．０７、１．０７となっている。

また、上記「②中長期的な入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」において記載したとおり、新設学科の入学定員を各４３人とした場合でも志願倍率は１．４倍程度を確保できる見込みであることから、定員を充足できる見込みである。

（３）学生の確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

熊本キャンパス既設３学科における２０２２年度の主な学生募集活動は以下のとおりである。

- ・ オープンキャンパス（８月に１日開催。参加者：３０９名）
- ・ 学生募集パンフレット「テクノモーション」の発行（７月発行）
- ・ オンライン進学相談会（１０月開催、参加者：３１組）
- ・ 上級学校説明会（中学校における進路説明会）への派遣：１７校）

- ・ 中学生対象入試説明会（10 月に開催、参加者：75 名）
- ・ 中学校・塾対象学校説明会（10 月に開催、参加校：41 校）
- ・ 中学校 PTA を対象とした学校見学会（随時、参加者：15 名）
- ・ 地元小中学生への連携理科授業、工作教室の開催

「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」は添付資料【別紙 3】のとおりである。

イ 新設組織における取組とその目標

熊本高専の一番のアピールポイントは、生き生きと活動する学生たちであると考えている。このため、オープンキャンパス、オンライン相談会などに学生の協力を求め、中学生が学生と接する機会を設けている。オープンキャンパス、オンライン相談会には相当数の県外からの参加もあり、県外からの学生獲得にもつながっている。また、学生募集パンフレット「テクノモーション」や各種説明会においては、部活動や研究活動、コンペティションなどにおける学生の活躍を紹介している。これらを通して、中学生自身が高専の学生となったときのことをイメージし、熊本高専への興味、志望意欲が高まることを目指している。

実践的な技術者教育を中学生に体験してもらうため、各キャンパスで実施しているオープンキャンパスでは、体験実習を行っている。体験実習を通して「モノづくり」や「実験・実習」の楽しさを知ってもらい、専門学科への興味が深まり、志望学科選択の契機となることを目指している。

女子学生確保の観点からは、オープンキャンパスの相談コーナー、オンライン進学相談会において、女子生徒のためのブースを開設することによって、学生が中学生にとってのロールモデルとなること、高専に対する不安の解消となることを目指している。

さらに、地元の小中学生への連携理科授業や工作教室等も長年にわたり実施しており、間接的に学生募集につながっている。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく新設組織での入学者の見込み数

上述したとおり、過去 5 年間の 3 学科の志願倍率はいずれの学科も平均 1.8 倍、また、入学定員充足率については、1.07～1.08 となっており、十分な学生を確保している。

過去 5 年間の入学定員を、43 名（収容定員増員後の入学定員数）と仮定した場合の平均志願倍率は 1.4 倍以上であり、入学定員を増員した場合においても十分な学生確保が可能である。

②競合校の分析状況

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

競合校は、九州地区（沖縄を除く）国立高専であり、一番手として有明高専（福岡県大牟田市）があげられる。熊本県内の高専は本校1校のみで、入学者の9割以上は熊本県出身者である。本校に最も近い位置にある有明高専には熊本県出身者が年50人程度入学しているが、出身市町村を確認すると本校との重なりはほぼ認められない。同校以外の九州地区（沖縄を除く）国立高専への熊本県出身者の入学者数は年0～1人である。佐世保高専（長崎県佐世保市）、鹿児島高専（鹿児島県霧島市）では、本校同様に高度情報専門人材を増員する学科等改組計画が現在進行又は構想中であるが、立地条件で本校に優位性がある。国立高専では、学科によって教育内容と方法及び取得できる資格などに違いはあるが、入試、学生納付金及び奨学制度などの修学支援の内容、就職支援の内容は基本的に同様である。

本校熊本キャンパスでは、入学者に「入学動機に関するアンケート」を継続して実施しており、令和6年度アンケートによると、併願した県立高校は、本校と所在地及び学力層の類似性がある熊本北、熊本第二、熊本第一、済々黌、熊本工業の順に多くなっている（各校とも5人以上）。私立高校との併願は極少数である。高校と高専では、修業年限、学費、教育内容等に大きな違いがあり、競合校として比較することは難しい。高校には卒業までの学費で優位性があり、高専には卒業すると準学士の称号が付与され、専攻科進学で学位授与も可能となる点に優位性がある。高専と専攻科の7年間と高校と大学の7年間の学費（右図参照）を比較すると、前者に優位性がある。

学費・経済支援

授業はしっかり、でも学費はリーズナブル！
授業料免除・奨学金制度も充実

進学したい、でも学費が…と悩んでいる人でも、高専なら大丈夫。高専は、国立大学と比べて学費が安いことも特徴です。

高専+専攻科の7年間と
高校+大学の7年間では
約100万円
違います！※1

■授業料を比べてみたら

高専(5年)+専攻科(2年)

	入学科	授業料	卒業までの学費
高専 (本科)	84,600円	1～3年生 234,600円(年額)	1,257,600円
		4・5年生 234,600円(年額)	
専攻科	84,600円	1・2年生 234,600円(年額)	553,800円

高専(5年)+専攻科(2年)の学費合計→ 1,811,400円

【例】公立高校(3年)+国立大学(4年)

	入学科	授業料	卒業までの学費
高校	5,650円	1～3年生 118,800円(年額)	362,050円
大学	282,000円	1～4年生 535,800円(年額)	2,425,200円

公立高校(3年)+国立大学(4年)の学費合計→ 2,787,250円

※1 就学支援金、高等教育の修学支援新制度未利用の場合

イ 競合校の入学志願動向等

九州地区（沖縄を除く）国立高専の過去3年間の入学志願状況等は下表のとおりで、定員未充足の高専はない。

九州地区（沖縄を除く）高専の入学者選抜実施状況（高専機構本部事務局学務課調べ）

高専名	入学定員	令和4年度					令和5年度					令和6年度				
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
久留米	200	364	364	217	215	108%	377	377	215	209	105%	364	364	217	215	108%
有明	200	299	296	208	207	104%	286	279	208	204	102%	299	296	208	207	104%
北九州	200	281	279	205	200	100%	289	286	210	208	104%	281	279	205	200	100%
佐世保	160	246	243	174	172	108%	236	235	176	173	108%	246	243	174	172	108%
熊本	240	402	394	257	257	107%	385	383	256	254	106%	402	394	257	257	107%
大分	160	230	230	162	160	100%	266	266	161	161	100%	230	230	162	160	100%
都城	160	202	202	165	164	103%	188	188	165	163	102%	202	202	165	164	103%
鹿児島	200	281	277	210	209	105%	305	301	210	208	104%	281	277	210	209	105%

佐世保高専と鹿児島高専では、本校同様に高度情報専門人材を増員する学科等改組計画が現在進行又は構想中であるが、立地条件で本校に優位性があり、本校の定員確保への影響は軽微である。

上記アで述べた熊本県内の高校（熊本北、熊本第二、熊本第一、済々黌、熊本工業）の過去3年間の入学志願状況等は下表のとおりで、定員未充足の高校はなく、令和7年度の定員増は確認できていないことから、本校への影響はほぼないと考える。

熊本県内公立高校 入学志願状況等

高校名	募集定員	令和4年度				令和5年度				令和6年度			
		後期(一般)選抜受験者数	前期選抜等による合格内定	合格内定者を除く志願倍率	最終合格者数	後期(一般)選抜受験者数	前期選抜等による合格内定	合格内定者を除く志願倍率	最終合格者数	後期(一般)選抜受験者数	前期選抜等による合格内定	合格内定者を除く志願倍率	最終合格者数
熊本北	360	490	40	1.4	362	445	40	1.4	363	428	40	1.3	362
熊本第二	400	551	40	1.5	407	548	40	1.5	410	530	40	1.5	403
熊本第一	360	582	10	1.7	369	574	10	1.6	369	624	10	1.8	375
済々黌	400	652	—	1.6	411	527	—	1.6	413	644	—	1.6	415
熊本工業	400	339	200	1.7	410	271	200	1.4	403	284	200	1.4	400

新設組織では定員を各学科とも現組織40人から3人ずつ増やし43人とする予定であるが、上述したとおり、過去5年間における各学科の平均志願者数は70.6～73.2人であり、熊本県の15歳人口減少率▲17.7%を反映させた場合でも志願者数は58.1～60.3人であることから、定員の充足は可能である。

③学生確保に関するアンケート調査【資料2】

熊本キャンパスのオープンキャンパスに参加した中学生を対象に構想中の学科改組に関するアンケート調査（以下「オープンキャンパス調査」という。）をFormsにより実施した。

- ・実施日：令和6年8月3日～17日、対象者数：330人、回答者数：169人（回答率：51.2%）

※オープンキャンパスは会場の都合上、参加者数に上限があり、希望者全員は出来ない。

回答者数 169 人のうち、中学 3 年生 148 人 (87.6%)、中学 2 年生 11 人 (6.5%)、中学 1 年生 10 人 (5.9%) であった。

令和 6 年度に熊本キャンパス 3 学科に入学した学生に対してアンケート調査（以下「新入生調査」という。）（3 学科合計入学者数 129 人）を実施し、受験決定時期について質問したところ、「中学 3 年生になってから」と回答した割合が 72.1%であった。

改組後の学科に入学する中学生は現在の 2 年生以下となるが、その多くはまだ受験決定していないことから、学生の確保の見通しについて、オープンキャンパス調査での 3 年生のデータを用いて分析することとした。

オープンキャンパス調査で、「合格したら入学する」と回答した人数は、電子情報通信工学科 41 人、知能制御情報工学科 27 人、情報工学科 38 人であった。また、「他の志望校に不合格の場合に入学する」と回答した人数まで含めると、電子情報通信工学科 49 人、知能制御情報工学科 30 人、情報工学科 47 人となる。

令和 6 年度の新入生調査（3 学科合計入学者数 129 人）で、入学者のうちオープンキャンパス参加数 50 人、オープンキャンパス不参加者数 79 人であった。このデータからオープンキャンパス不参加でもオープンキャンパス参加者数の 1.6 倍の入学者数を見込めると仮定すると、電子情報通信工学科 65 人（端数切捨て）、知能制御情報工学科 43 人（同）、情報工学科 60 人（同）となる。

上記を合計すると、電子情報通信工学科 114 人、知能制御情報工学科 73 人、情報工学科 107 人となり、各学科とも入学定員 43 名以上となることから、学生の確保の見通しは十分であると分析する。

なお、熊本キャンパス各学科受験者は、最大で第三志望まで学科を併願できることになっており、第一志望の学科が不合格で第二志望の学科で合格して入学する者もいる。

④人材需要に関するアンケート調査等【資料 3】

熊本高専の将来構想を計画する上で、本校へ求人を頂いている企業のニーズを把握するため、令和 5 年 12 月にアンケート調査を実施した。対象は、12 月 9 日に八代キャンパスで開催したキャリア研修会への参加企業 139 社、および 12 月 19 日に熊本キャンパスで開催したキャリアセミナーへの参加企業 140 社で、重複を除く 235 社である。Microsoft Forms を用いた調査で、59 件の回答(回答率 25.1%)であった。

回答のあった 59 社の内、49 社は本校の卒業生・修了生を採用した実績があり、熊本高専の 6 学科全てを対象として情報系技術を会得した人材が必要であると回答している割合が極めて高い。定員増を予定している熊本キャンパスの 3 学科（電子情報通信工学科、知能制御情報工学科、情報工学科へ改組）については、5 名程度の定員増を期待している企業が 50% 以上であった。

学科全てを対象に、これまで以上に情報系に関する知識・技術を修得し、より情報工学に精通した人材が極めて必要とされており、高度情報専門人材の育成を強化する本校の将来

構想と一致している。このことから、熊本高専の改組後においても、育成する人材の需要は十分に確保できるものとする。

（４）新設組織の定員設定の理由

新設学科と同等の既設学科の入学実績があり、過去の志願倍率、求人倍率を参考とし、15歳人口の動向を踏まえて定員を設定した。また、高等専門学校設置基準第5条第2項に「一学級の学生数は、四十人を標準とする。」と規定されており、少人数教育でしっかりと技術者教育をするという高専の特長を活かすためにも定員規模は44人(10%増)を上限とし、ST比への影響も考慮して定員を設定した。

熊本キャンパス既設3学科の令和6年度の志願倍率は平均1.8倍、令和5年度（令和6年3月末現在）の求人倍率は32.7倍である。新設学科では教育課程を変更して高度化を図ることとするが、社会的・地域的な課題となっている情報系人材の確保・育成に対応するためには教育内容の高度化（質の向上）だけでは十分とは言えず、高い求人倍率への対応（供給人数の増）が必要である。本校には八代キャンパスに3学科（機械知能システム工学科、建築社会デザイン工学科、生物化学システム工学科）があるが、令和6年度の志願倍率は平均1.6倍、令和5年度（令和6年3月末現在）の求人倍率は44.4倍である。また、情報系人材の確保・育成の課題に対応するため同各学科内に情報コースを設置する計画があることから、八代キャンパスの定員は維持し、学校全体の入学定員及び収容定員を増員することとする。

添 付 資 料

【 資 料 1 】	(PR 版) くまもと半導体産業推進ビジョン	・ ・ ・ ・ ・	p. 2
【 資 料 2 】	学生確保に関するアンケート調査	・ ・ ・ ・ ・	p. 4
【 資 料 3 】	人材需要に関するアンケート調査	・ ・ ・ ・ ・	p. 16
【 別 紙 1 】	新設組織が置かれる都道府県への入学状況	・ ・ ・ ・ ・	p. 12
【別紙 2-1】	既設学科等の入学定員の充足状況 (直近 5 年間)		
	情報通信エレクトロニクス工学科	・ ・ ・ ・ ・	p. 17
【別紙 2-2】	既設学科等の入学定員の充足状況 (直近 5 年間)		
	制御情報システム工学科	・ ・ ・ ・ ・	p. 18
【別紙 2-3】	既設学科等の入学定員の充足状況 (直近 5 年間)		
	人間情報システム工学科	・ ・ ・ ・ ・	p. 19
【 別 紙 3 】	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	・ ・ ・	p. 20

くまもと半導体産業推進ビジョン

ビジョン策定の背景と課題

- ◆新型コロナウイルスに伴うデジタル化の進展及びデジタルサービスの普及に伴う半導体需要増大
- ◆経済安全保障の観点から国内製造の必要性の拡大
- ◆SDGsの機運の高まり

**TSMCの熊本県進出を契機とした半導体産業をはじめとする
県内産業の更なる振興と県下全域における県経済の成長の実現**

◆県内半導体産業の更なる成長のために対策すべき課題◆

半導体を
安定的に生産するために
必要な競争力や
インフラなどへの不安

直近及び
将来的な半導体
人材の不足

アカデミア、産業界など、
多様なプレイヤーの
連携機会の不足

2030年頃
に向けて
目指す姿

半導体インフラを支え、挑戦し続ける熊本

①世界に半導体を供給し続ける拠点・熊本

②半導体人材が集う拠点・熊本

③半導体を核とした産業創出拠点・熊本

2030年頃に向けて目指す姿

半導体インフラを支え、 挑戦し続ける熊本

くまもとの半導体が
世界中のデジタルを
支えている

世界に半導体を供給し続ける拠点

- 強靱な半導体サプライチェーンを有する
世界における重要な半導体集積拠点
- 世界に範たる環境と調和した産業の形成
→半導体サプライチェーン全体で、
脱炭素化やGX、環境負荷が低減
- 世界に先駆けた三次元積層実装産業集積地

半導体人材が集う拠点

- 世界トップレベルの半導体人材が集い、
活躍している
- あらゆる世代の県民が半導体に
親しみと、誇りを持っている

半導体を核とした産業創出拠点

- 異分野融合によるベンチャー・スタートアップや
新たな産業の創出
- 最先端の半導体を利用したDX/GXの推進
- 世界中からヒト・モノ・カネが集まり、
世界と繋がるイノベーション・エコシステム拠点

3つの方針と取組み

方針 1

半導体サプライチェーンの強靱化

熊本県の強みである前工程や半導体製造装置の競争力をさらに高めるとともに、材料及び設計の“川上”から後工程の“川下”まで切れ目なくつながる強靱なサプライチェーンの構築を目指す。
さらに、革新的な最先端技術の研究開発を推進し、日本の半導体サプライチェーンの中長期的な国際競争力強化を熊本で目指す。

方針 2

安定した半導体人材の確保・育成

半導体・デジタル領域の幅広い知識を持ち、様々な産業領域で活躍できるグローバル人材の育成・集積を図るとともに、地場中小企業を含めた DX の促進を図る。

方針 3

半導体イノベーション・エコシステムの構築

多様化するユーザー企業（出口産業）と連携・協業するとともに、半導体関連産業で培った技術や資源をもとに、バイオやライフサイエンス産業等の異分野と融合し、新たな産業を創出するなど、産業創造の連鎖を生み出すイノベーション・エコシステムを構築する。

位置づけ

令和3年（2021年）3月に策定した「新しいくまもと創造に向けた基本方針」を踏まえながら、県の産業政策全体の指針である「熊本県産業成長ビジョン」における特定の産業分野の計画として位置付け、熊本県における今後の半導体関連産業施策の方向性について示すものとする。

計画期間

令和5年度（2023年度）から令和14年度（2032年度）の10年間。
なお、社会環境の変化や取組み状況等に応じて、計画期間内であっても必要な見直しを断続的に行う。

進捗管理と推進体制

「くまもと半導体産業推進ビジョン」における3つの方針に基づく政策を効果的に進めるために、産業界、大学・教育研究機関、支援機関、金融界、政府と緊密に連携して取り組む。また進捗を評価することで目指す姿の実現につなげていく。

目標値の設定

本ビジョンに掲げる目指す姿及び重点的な取組みの進捗を評価し、その上で取り組むべき施策の方向性を明らかにするため目標値を設定する。

指標	目標値	現状
半導体関連産業生産額	19,315億円 (2032年)	8,290億円 (2019年)
半導体関連企業の新増設件数(累計)	130件 (2032年度)	13件 (過去10年間の平均)
半導体関連産業の雇用者数	25,490人 (2032年)	21,275人 (2019年)
県内大学、高専、高校卒業後の半導体関連企業への就職者数	255人以上(※) (2032年度)	171人 (2021年度)
半導体関連ベンチャー・スタートアップ企業の創出・進出数(累計)	10件 (2032年度)	- (2021年度)
県及び関係団体が提供する場における半導体関連の海外企業との商談件数(累計)	2,500件 (2032年度)	54件 (2021年度)

(※)各教育機関における取組みを踏まえ、今後上方修正予定

生徒用アンケート 令和6年度 国立熊本高専（熊本キャンパス） オープンキャンパス

オープンキャンパスにご参加いただきありがとうございます。生徒の皆さんは、お手数ですが、アンケートにお答えください。
質問は最大で16項目あります。

★ 必須

基本項目

1. 何年生ですか？ ★

- ☐ 中学1年
- ☐ 中学2年
- ☐ 中学3年
- ☐ その他

2. 性別を教えてください。★

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他 または 教えたくない

オープンキャンパスに参加して

3. 国立熊本高専（熊本キャンパス）のどこに興味を持ちましたか（複数回答可）。

- ☐ 就職率の高さ
- ☐ 大学編入可能な点
- ☐ 専門技術を身に付けられる点
- ☐ 国際交流
- ☐ 高度な設備
- ☐ 自由でのびのびとした校風
- ☐ ロボコン、プロコンなどの活動
- ☐ 専攻科がある点
- ☐ バイク通学可能な点
- ☐ その他

4. 前問で「その他」を選択した場合は、内容を記載してください。

5. オープンキャンパスに参加して、もっと国立熊本高専について知りたい点がありますか（複数回答可）。

- ☐ 就職先
- ☐ 編入学の進学先
- ☐ 受験のための勉強法
- ☐ 学生生活の様子
- ☐ 施設、設備
- ☐ 部活動の状況
- ☐ 研究活動
- ☐ その他

6. 前問で「その他」を選択した場合は、内容を記載してください。

7. オープンキャンパスの感想や本校に対するご意見、ご要望、その他お気づきの点がございましたらご記入ください。

ここからは熊本高専の将来構想に関する質問です。

配布した資料を見て回答してください。

8. 情報化社会に対応するために、情報の知識と技術を学ぶことは必要だと思いますか？ *

- ☐ 強くそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ 思わない

9. あなたは、情報分野の勉強をしたいと思いますか？ *

- ☐ 強くそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ 思わない

10. 中学卒業後の進路として、現時点で選択肢に入るものをお答えください。（複数回答可能）

- ☐ 高等専門学校(高専)に進学
- ☐ 高校(普通科)に進学
- ☐ 高校(工業科)に進学 ※工業科には情報系の学科を含みます。
- ☐ 高校(普通科・工業科以外)に進学
- ☐ まだ考えていない
- ☐ その他

11. 配布した資料で説明した将来構想は令和8年4月から開始する計画です。以降の質問については、中学3年生の方は「もし新学科等が令和7年度に設置されるならどう考えるか」を回答ください。

熊本高専の熊本キャンパスに新しく別添資料の学科が開設された場合、受験を希望しますか？ 次より一つ選択してください。

- ☐ 受験する
- ☐ 受験しない

12. 受験する学科を選んでください。

- ☐ 電子情報通信工学科
- ☐ 知能制御情報工学科
- ☐ 情報工学科

13. 選択した学科の志望順位を次より一つ選択してください。

- ☐ 第一志望として受験する
- ☐ 第二志望として受験する（他校を第一志望として受験する）
- ☐ 第三志望として受験する（他校を第一又は第二志望として受験する）

14. 選択した学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか？

- ☐ 入学する
- ☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ 入学しない

15. 熊本高専の熊本キャンパスの学科ではなく、**八代キャンパスの学科**に興味がある方に質問です。一番興味がある学科を一つ選択してください。

- ☐ 機械知能システム工学科
- ☐ 建築社会デザイン工学科
- ☐ 生物化学システム工学科
- ☐ 該当なし

16. 選択した一番興味がある学科に、情報系科目を強化した情報コースが開設された場合、どうしますか。

- ☐ 情報コースを希望する（情報系の科目を多く学ぶことになります）
- ☐ 情報コースを希望しない

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

Microsoft Forms

2026年(令和8年)4月 熊本高専は変わります！



- ✓これから必要な「**情報**」をどの学科でも学ぶことができます。
- ✓専門分野の力だけでなくそれを活かす「**基礎力**」を身につけられます。
- ✓どの学科でも「**半導体**」に関することを学ぶことができます。
- ✓チャレンジする「**ファーストペンギン**」を育てたいと思っています。
- ✓学生の皆さんの「**自主性**」を尊重した教育を行います。

5年後にはいろんな企業や大学から来て欲しいと言われます。



女子学生も増えてきています！



熊本高専ファーストペンギン
マスコットキャラクター「吟一郎」

※2026年度(令和8年度)にリニューアルする予定です(詳しくは裏面を)
現在構想中の計画で、今後、文部科学省の認可等が必要であり、内容が変更となる可能性があります。

【熊本高专とは】5年間の一貫教育で専門知識と技術を学ぶところです。卒業後は約半数が就職、それ以外が専攻科や大学に進学（3年生編入）します。九州大学工学部との連携プログラムもあります。

【教育理念】実践的技術者の育成を目指し、学生の多様な能力と自主性を尊重した教育により、社会における自身の役割と技術の重要性を認識して自然界や地域社会に存在する問題の解決に貢献できる人材を育成します。

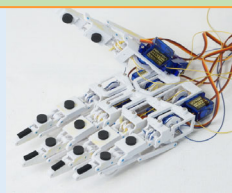
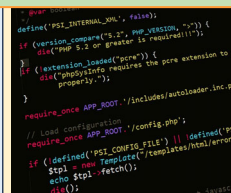
【養成する人材像】本校で養成するのは、(A)基盤となる専門分野の基礎および分野に共通して必要な技能を修得し創造性をもって技術の発展に貢献できる能力、(B)一般教養と広い視野により社会の課題を認識し共感協働の精神と実行力により技術を社会に活かす能力、を身につけた人材です。

【入学者選抜】本校での教育により上記の能力を身につけることができる人材を推薦選抜と学力選抜の二通りの方法で選抜します。

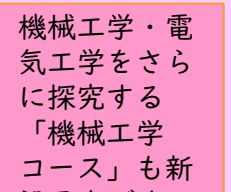


【入学科】84,600円 【授業料】234,600円（年額） 【学生寮】あり

熊本キャンパス 学科名を変更し、各学科定員が40名から43名に増えます！

電子情報通信工学科	知能制御情報工学科	情報工学科
半導体工学や電子回路などのエレクトロニクス分野および情報と通信技術の融合した情報通信分野の知識と技術を学び、安心・安全で快適な情報化社会を実現できる技術者をめざす学科です。	制御システムに関連する電気・電子・制御・情報などの知識と技術を学び、人工知能(AI)などの技術を活用して知的な制御システムを構築できる技術者をめざす学科です。	プログラミングやデータサイエンスなど情報分野に関係するさまざまな知識と技術を学び、情報システムの構築やアプリケーション開発のできる技術者をめざす学科です。
各学科の教育課程を改編、学科横断専門科目を設置し、上記情報系分野をより深く学ぶことができます。		
 半導体技術	 情報通信技術	 制御システム
 人工知能	 プログラミング	 情報セキュリティ

八代キャンパス 各学科定員40名の中に情報コース(7名×3学科)ができます！

機械知能システム工学科	建築社会デザイン工学科	生物化学システム工学科
機械、電気、ロボットや、コンピュータを使った設計・制御技術を学び、機械工学を基礎として「ものづくり」に貢献できる総合エンジニアを目指す学科です。	デザインや土木・建築の基礎に加え、情報通信・計測技術などを学び、建築物の設計施工、地域・まちづくりなどに貢献できる建設技術者をめざす学科です。	生物、化学および情報電子(ICT)技術の基礎を学び、医・食・環境等の分野で活躍できる実践的バイオ・ケミカル技術者をめざす学科です。
各学科の情報コースを選択すると情報系分野（デジタルツイン、VR、AR等）を多く学ぶことができます。		
 ロボット解析	 UAV測量	 香気成分分析
機械工学・電気工学をさらに探究する「機械工学コース」も新設予定です。	建築学・土木工学をさらに探究する「建築社会コース」も新設予定です。	生物科学・化学をさらに探究する「生物化学コース」も新設予定です。



熊本高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Kumamoto College

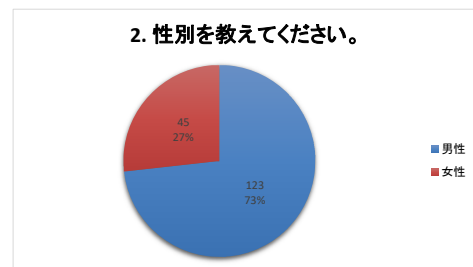
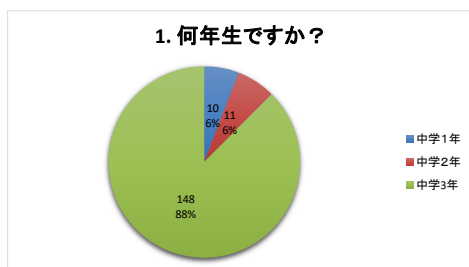
<https://kumamoto-nct.ac.jp/>

TEL: 0965-53-1219



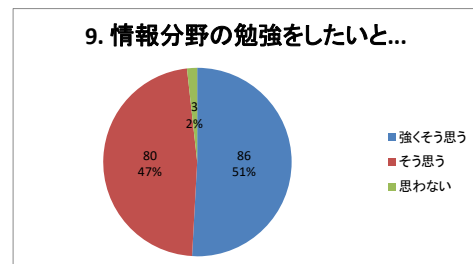
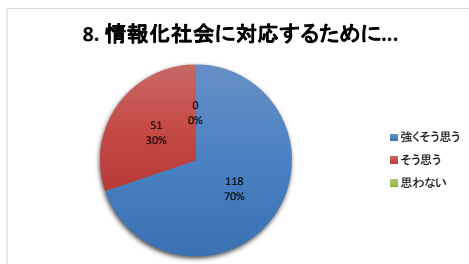
生徒用アンケート 令和6年度 国立熊本高専(熊本キャンパス)オープンキャンパス

1. 何年生ですか？	
中学1年	10
中学2年	11
中学3年	148



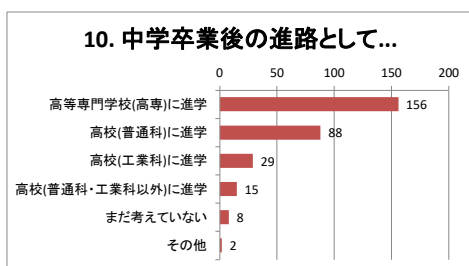
2. 性別を教えてください。	
男性	123
女性	45

8. 情報化社会に対応するために、情報の知識と技術を学ぶことは必要だと思いますか？	
強くそう思う	118
そう思う	51
思わない	0



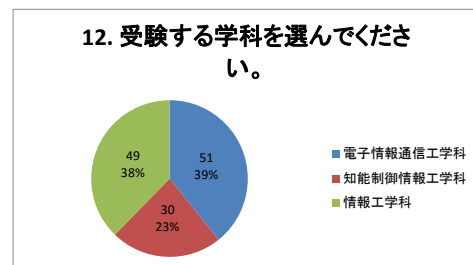
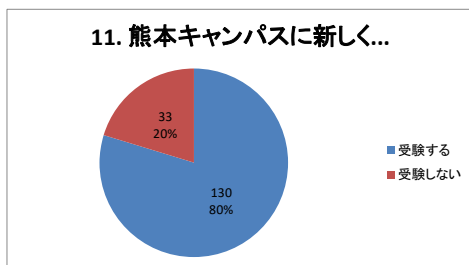
9. あなたは、情報分野の勉強をしたいと思いますか？	
強くそう思う	86
そう思う	80
思わない	3

10. 中学卒業後の進路として、現時点で選択肢に入るものをお答えください。 (複数回答可能)	
高等専門学校(高専)に進学	156
高校(普通科)に進学	88
高校(工業科)に進学	29
高校(普通科・工業科以外)に進学	15
まだ考えていない	8
その他	2



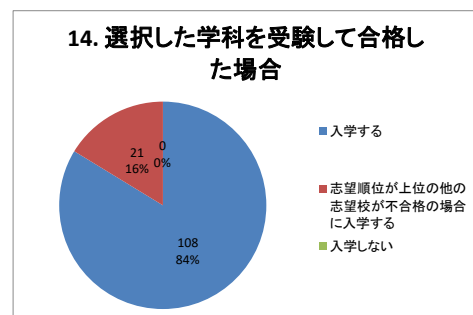
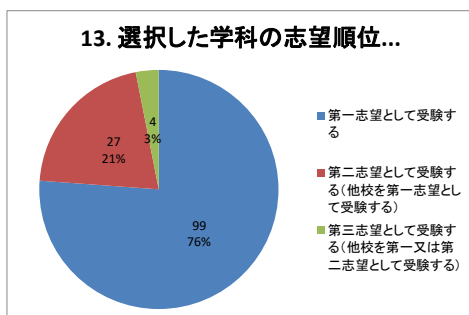
配布した資料で説明した将来構想は令和8年4月から開始する計画です。
以降の質問については、中学3年生の方は「もし新学科等が令和7年度に設置されるならどう考えるか」を回答ください。

11. 熊本高専の熊本キャンパスに新しく別添資料の学科が開設された場合、受験を希望しますか？	
受験する	130
受験しない	33

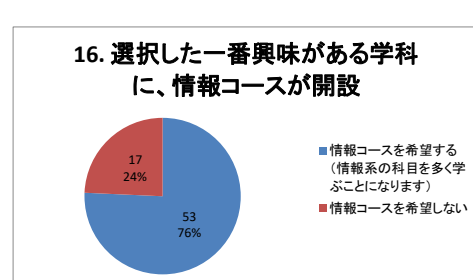
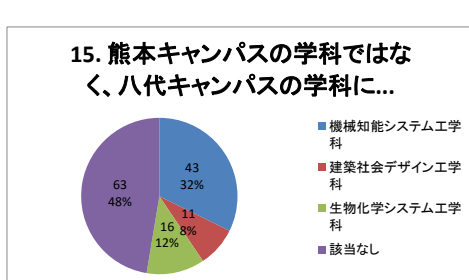


12. 受験する学科を選んでください。	
電子情報通信工学科	51
知能制御情報工学科	30
情報工学科	49

13. 選択した学科の志望順位を次より一つ選択してください。	
第一志望として受験する	99
第二志望として受験する(他校を第一志望として受験する)	27
第三志望として受験する(他校を第一又は第二志望として受験する)	4



15. 熊本高専の熊本キャンパスの学科ではなく、八代キャンパスの学科に興味がある方に質問です。一番興味がある学科を一つ選択してください。	
機械知能システム工学科	43
建築社会デザイン工学科	11
生物化学システム工学科	16
該当なし	63



16. 選択した一番興味がある学科に、情報系科目を強化した情報コースが開設された場合、どうしますか？	
情報コースを希望する(情報系の科目を多く学ぶこととなります)	53
情報コースを希望しない	17

令和 5 年 12 月 19 日

熊本キャンパスキャリアセミナー御参加の
企業の人事・採用担当者 様

熊本高等専門学校長
高松 洋

熊本高専の将来構想に関するアンケート調査への御協力をお願い

平素は、本校運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校は、実践的・創造的技術者を養成するため、熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が高度化再編統合され、2009 年 10 月に設立されました。2つのキャンパス（熊本キャンパス；合志市、八代キャンパス；八代市）に 6 学科・2 専攻を有し、熊本キャンパスでは最先端の ICT を学ぶ電子情報系の学科体制、八代キャンパスでは幅広い専門分野を学べる融合・複合工学系体制を整えています。

一方で、産業構造や社会経済が劇的に変化する中、熊本県ならびに我が国の将来に向けて新たな教育・研究体制の刷新を目指し、持続的に発展・創造できる技術者を養成する「高専づくり」について改めて検討を行う必要があります。

そこで、今後の高専づくりに際して色々と検討を進めている中、アンケート形式で御意見を伺い、教育・研究体制の整備・充実を図る上での参考にさせていただきたいと考えております。

ご回答いただきました内容につきましては、個々の企業名・団体名を含めた回答者名が特定されることのないよう注意した上で利用させていただきますので、率直な回答をお願いします。

アンケート調査の実施方法

1. 次の QR コードからアクセスしてください。
 - * QR コードからアクセスできない場合は、URL からお入りください。
 - * 当該 Forms は、セキュリティに十分配慮して作成しております。



<https://forms.office.com/r/3wdBdSjVSE>

2. 回答期限は、12月31日（日）までとさせていただきます。
3. 質問項目（最大 26 問）にお答えください（10 分程度で完了いたします）。

アンケートに関する御問い合わせ先

熊本高等専門学校改組検討委員会

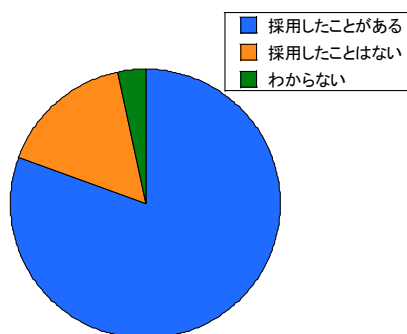
（事務担当：熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 長友）

TEL : 0965-53-1215 E-mail : so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

※ メールでお問い合わせの際は、表題を「【熊本高専・将来構想アンケート】」としてください。

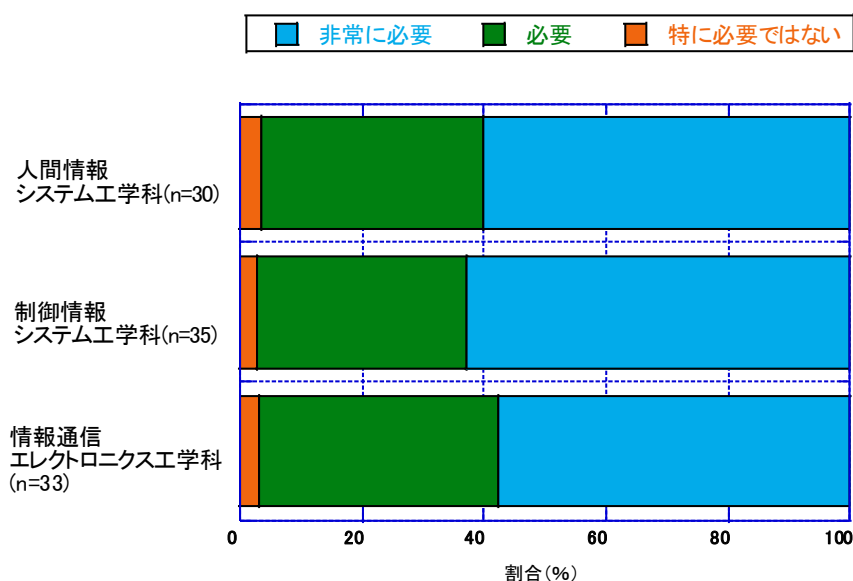
【アンケート調査結果】

○これまでに、熊本高専（高度化再編前の熊本電波高専・八代高専を含む）の卒業生・修了生を採用されたことがありますか？



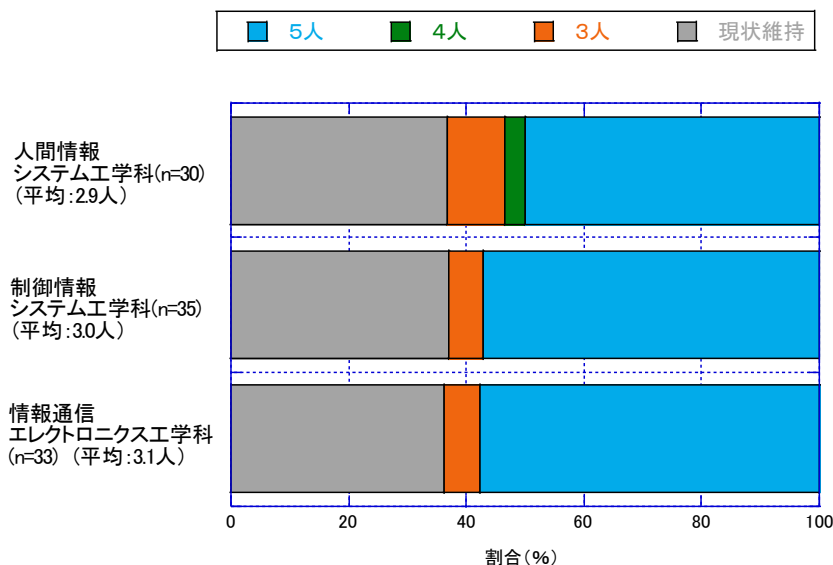
○御社および御社の業界にとって、高度な情報系技術を会得した「情報探究系」「情報融合系」の人材（卒業生）を、今後、確保することは必要だとお考えですか。

「情報探究系」「情報融合系」の人材(卒業生)を、今後確保することは必要か？

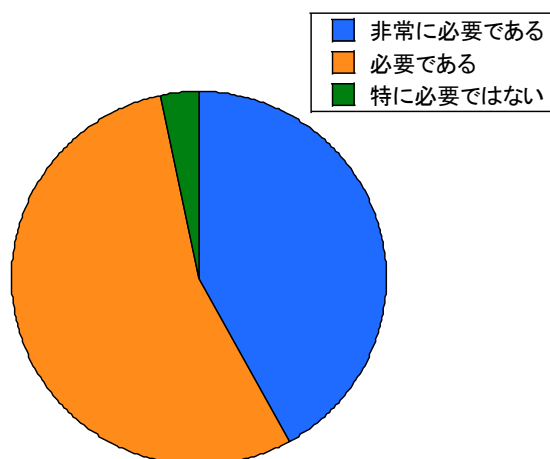


○40 人の入学定員を若干名増加させることも検討していますが、何人ぐらい定員を増加させた方がよいと思われますか？

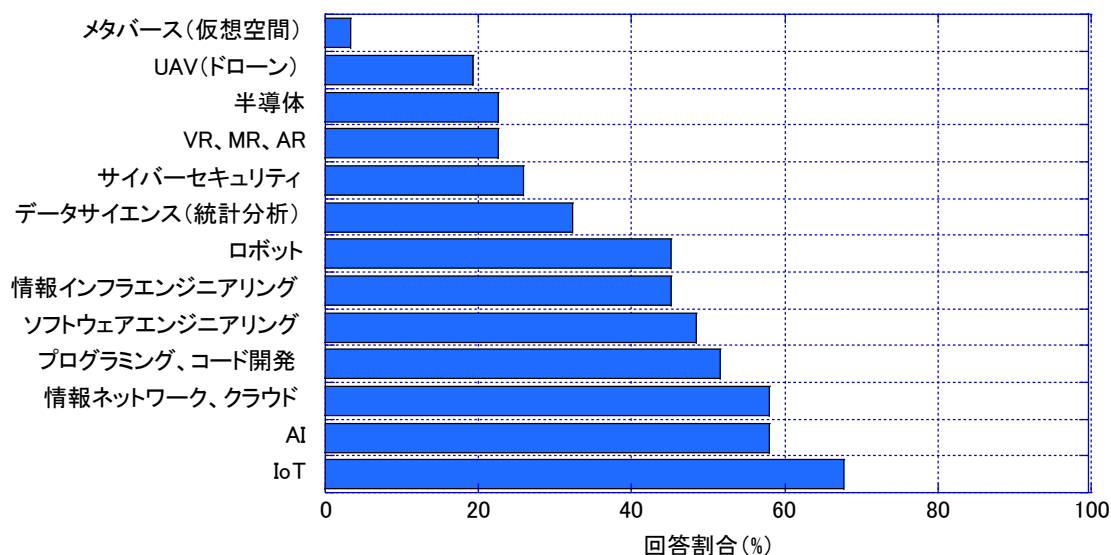
現在40人の入学定員を何人増加すべきか。



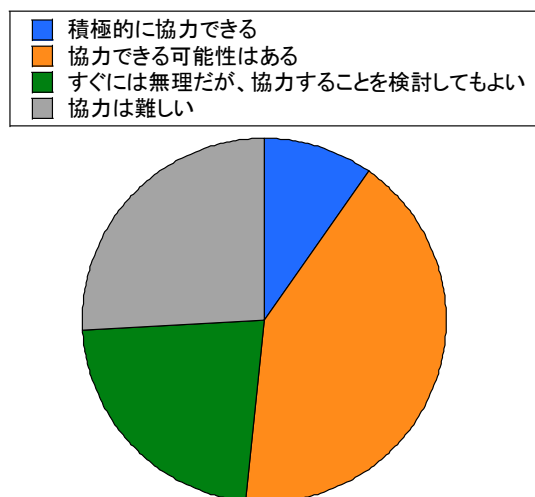
○低学年時では、6学科の枠を超え、学生・教員が一体となって、これまで以上に情報系に関する知識・技術を修得していくことを検討しています。御社および御社の業界にとって、今までよりも更に情報システム（情報工学）に詳しい人材が必要と思いますか？



○熊本高専が輩出する情報系人材として御社および御社の業界が必要であると考える分野等は何ですか。（複数選択可）



○熊本高専は、実践的・創造的技術者の育成を目指していますが、その一環として、企業等で活躍されている技術者に専門科目の授業を担当していただくことを検討してます。この構想にご協力いただけるかお尋ねします。



○熊本高専の将来構想に関して、御意見、御提案等がございましたら、ご自由にお書きください。

・「TSMC」の熊本進出で半導体関連の人材育成が必要になってきて、学生の交流や共同研究が始まると新聞記事等にありました。学生の就職先企業の選択も変化するものと考えます。学生が専門分野に留まることなく幅広く学習・研究することの必要性を強く感じます。企業（＝業界）の盛衰は常ですので、時代に合わせて（先行して）カリキュラムを変化させることは、非常に良いことだと考えます。

・これまでも卒業生を採用させて頂き、またこれからもぜひ採用を継続させて頂きたいと考えております。弊社に在籍している卒業生のみならず、会社説明会などでお会いする熊本高専生は、総じて優秀な方ばかりで、社会での活躍を大いに期待できていると考えています。そのため、クラスの定員数が多くなることに対してはとてもポジティブに捉えております。もちろん教育に携わる先生方のご苦勞については頭が下がる思いです。企業側としてはぜひ多くの優秀な学生様を輩出して頂けますことを望んでおります。

・今後も専門性を保ちつつ発展性をもって即戦力となる人材育成に努めていただきたいと思います。

・社会的な問題に対しての取組がされており、弊社の取組ともマッチしております。また、持続的に発展・創造できる技術者を養成は共感いたします。

・専門性に特化した技術の教育、素晴らしいと存じます。熊本を代表する技術者の学校としてこれからも応援しております。

・非常によい取り組みであると思います、優秀な高専生を熊本が先頭に立って輩出していただければと思いますし、積極的に採用したいと思っております。

・弊社に入社される学生さんの質は高く、基本的な人間としての成長はこれまでのとおりで良いのではと思っています。専門性を深められれば鬼に金棒でしょう。

・勉強も大事ですが、社会人になる前の段階として相互コミュニケーションの取り方などを学習、実践して身につける場があっても良いかと思います。

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身中学の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	熊本県	238人	92.6%
2	鹿児島県	10人	3.9%
3	福岡県	5人	1.9%
4	岐阜県	1人	0.4%
5	大阪府	1人	0.4%
	全 体	257人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	熊本県	107.50%	105.83%	107.08%

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	理・工学系学科（高専）	107.50%	105.83%	107.08%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：熊本高等専門学校情報通信エレクトロニクス工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数						#DIV/0!
	延べ人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
学校推薦型選抜	募集人数	16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	39人	39人	43人	38人	32人	38人
	志願者数	39人	39人	43人	38人	32人	38人
	受験者数	16人	16人	16人	16人	16人	16
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	39人	39人	43人	38人	32人	38.2
	志願者数	39人	39人	43人	38人	32人	38.2
	受験者数	16人	16人	16人	16人	16人	16
一般選抜	募集人数	24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	61人	52人	67人	49人	46人	55人
	志願者数	61人	50人	66人	48人	44人	54人
	受験者数	27人	27人	27人	27人	27人	27人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	61人	52人	67人	49人	46人	55人
	志願者数	61人	50人	66人	48人	44人	54人
	受験者数	27人	27人	27人	27人	27人	27人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	100人	91人	110人	87人	78人	93人
	志願者数	100人	89人	109人	86人	76人	92人
	受験者数	43人	43人	43人	43人	43人	43人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	100人	91人	110人	87人	78人	93人
	志願者数	100人	89人	109人	86人	76人	92人
	受験者数	43人	43人	43人	43人	43人	43人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.08	1.08	1.08	1.08	1.08	1.08
歩留率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

大学学部学科等名：熊本高等専門学校制御情報システム工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学	R3年度入学	R4年度入学	R5年度入学	R6年度入学	平均
総合型選抜	募集人数						#DIV/0!
	延べ人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
学校推薦型選抜	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	入学者数						#DIV/0!
	募集人数	16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	52人	41人	34人	28人	42人	39人
	志願者数	52人	41人	34人	28人	42人	39人
	受験者数	16人	16人	16人	17人	17人	16.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
一般選抜	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	52人	41人	34人	28人	42人	39.4
	志願者数	52人	41人	34人	28人	42人	39.4
	受験者数	16人	16人	16人	17人	17人	16.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	16人	16人	16人	17人	17人	16.4
	募集人数	24人	24人	24人	24人	24人	24
	延べ人数	69人	42人	46人	40人	46人	48.6
共通テスト利用入試	志願者数	69人	42人	45人	39人	42人	47.4
	受験者数	27人	27人	27人	26人	26人	26.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0.4
	辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0.4
	実人数	69人	42人	46人	40人	46人	48.6
	志願者数	69人	42人	45人	39人	42人	47.4
	受験者数	27人	27人	27人	26人	26人	26.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0.4
その他の特別選抜	辞退者数	26人	27人	27人	25人	26人	26.2
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	募集人数	121人	83人	80人	68人	88人	88人
	延べ人数	121人	83人	79人	67人	84人	87人
	志願者数	43人	43人	43人	43人	43人	43人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
	うち追加合格者数	121人	83人	80人	68人	88人	88人
	辞退者数	121人	83人	79人	67人	84人	87人
	実人数	43人	43人	43人	43人	43人	43人
合計	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
	辞退者数	42人	43人	43人	42人	43人	43人
	入学者数						
	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						

3. 入学定員充足率

	R2年度入学	R3年度入学	R4年度入学	R5年度入学	R6年度入学	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.05	1.08	1.08	1.05	1.08	1.07
歩留率	0.98	1.00	1.00	0.98	1.00	0.99

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

大学学部学科等名：熊本高等専門学校人間情報システム工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
学校推薦型選抜	入学者数							#DIV/0!
	募集人数		16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	38人	46人	37人	23人	54人	40人
		受験者数	38人	46人	37人	23人	54人	40人
		合格者数	16人	16人	16人	16人	17人	16.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	38人	46人	37人	23人	54人	39.6
		受験者数	38人	46人	37人	23人	54人	39.6
		合格者数	16人	16人	16人	16人	17人	16.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
一般選抜	入学者数		16人	16人	16人	16人	17人	16.2
	募集人数		24人	24人	24人	24人	24人	24
	延べ人数	志願者数	55人	53人	46人	45人	57人	51.2
		受験者数	55人	52人	46人	43人	56人	50.4
		合格者数	27人	27人	28人	27人	26人	27
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0.4
	実人数	志願者数	55人	53人	46人	45人	57人	51.2
		受験者数	55人	52人	46人	43人	56人	50.4
		合格者数	27人	27人	28人	27人	26人	27
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0.4
共通テスト利用入試	入学者数		26人	27人	28人	26人	26人	26.6
	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
その他の特別選抜	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
		受験者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
		受験者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	93人	100人	83人	68人	111人	91人
		受験者数	93人	99人	83人	66人	110人	90人
		合格者数	43人	43人	44人	43人	43人	43人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	93人	100人	83人	68人	111人	91人
		受験者数	93人	99人	83人	66人	110人	90人
		合格者数	43人	43人	44人	43人	43人	43人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		42人	43人	44人	42人	43人	43人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.05	1.08	1.10	1.05	1.08	1.07
歩留率	0.98	1.00	1.00	0.98	1.00	0.99

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：熊本高等専門学校（熊本キャンパス）オープンキャンパス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	575人	686人	①取組概要 受験希望者及び保護者を対象としてキャンパスを開放し、学校及び入試の概要に関する説明、校内見学、各学科の実験等体験を実施。 R5年度入試対象（R4開催）：計1回開催（8/6） R6年度入試対象（R5開催）：計1回開催（8/6）
うち受験対象者数 (b)	309人	364人	
うち受験者数 (c)	137人	149人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパス参加者の入学率等はここ数年安定している。また、既設学科における過去5年間の平均志願倍率も1.8倍と高い水準を保っており、本取組の効果が推察できる。新設学科においても同様の効果が期待でき、既設学科と同等以上の入学者数が見込まれる。
うち入学者数 (d)	94人	99人	
（受験率 c/b）	44.3%	40.9%	③受験対象者数（b）について 参加者等総数（a）は中学生とその保護者の合計であり、（a）のうち中学生の数を受験対象者数（b）としてカウントした。
（入学率 d/b）	30.42%	27.20%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：熊本高等専門学校（熊本キャンパス）入試説明会・進学相談会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	145人	231人	①取組概要 受験希望者及び保護者を対象として、電波祭（高専祭）と合わせてキャンパスを開放し、学校及び入試の概要に関する説明、個別の相談会を実施。 R5年度入試対象（R4開催）：計2回開催（10/22, 10/23） R6年度入試対象（R5開催）：計1回開催（10/28）
うち受験対象者数 (b)	75人	119人	
うち受験者数 (c)	—	—	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 本取組参加者に係る受験者数のデータは無いが、本取組参加者の入学率は直近2年の平均が79.3%と非常に高い。新設学科においても同様の効果が期待でき、既設学科と同等以上の入学者数が見込まれる。
うち入学者数 (d)	68人	81人	
（受験率 c/b）	—	—	③受験対象者数（b）について 参加者等総数（a）は中学生とその保護者の合計であり、（a）のうち中学生の数を受験対象者数（b）としてカウントした。
（入学率 d/b）	90.67%	68.07%	